

当院において 2000 年 1 月 1 日～倫理委員会承認日前日に転移性脳腫瘍と診断  
され全脳照射の加療を受けられる患者さんへのお知らせ

課題名：Voxel-Based Specific Regional System for Alzheimer's Disease (VSRAD)  
を用いた全脳照射後の脳萎縮の定量評価

研究の概要

川崎医科大学 放射線医学(治療) 教室では、上記研究を実施します。

研究期間は、倫理委員会承認日～3年間の予定です。

対象は 2000 年 1 月 1 日～倫理委員会承認日前日に転移性脳腫瘍と診断され、全脳照射の加療を受けられた患者さんです。患者さんの治療効果・経過を検討するための調査研究を実施します。転移性脳腫瘍に対する放射線治療の中でも標準的な治療法の有害事象に関する臨床試験です。近年、新規抗癌剤や分子標的治療薬の開発や放射線治療を用いた集学的治療により、がん患者の余命の延長が期待できるようになった一方で、余命の延長に伴う晩期有害事象の出現が問題となっています。晩期有害事象のなかでも、全脳照射後の晩期有害事象である脳萎縮や認知症は、生活の質を低下させる可能性があり、腫瘍制御に有効な治療でありながら、全脳照射が敬遠される理由の一つとなっています。

今回、我々は、この全脳照射後の脳萎縮・認知症の発生頻度や脳萎縮の形態学的分類を行います。特に、脳の微細な萎縮性変化を視覚的かつ客観的に評価するため、Voxel-Based Specific Regional System for Alzheimer's Disease (VSRAD)を用い、全脳照射後の脳萎縮を定量的に評価することで、今後の全脳照射症例に対し、おこりうる非可逆的な脳萎縮や認知症などの発生頻度を軽減することを目的としています。

個人が直接同定されうる情報は収集いたしません。

臨床研究における利益相反 (COI:Conflict of Interest) とは「主に経済的な利害関係によって公正かつ適正な判断が歪められてしまうこと、または、歪められているのではないかと疑われかねない事態」のことを指します。具体的には、研究者が企業等から経済的な利益(謝金、研究費、株式等)の提供を受け、その利益の存在により臨床研究の結果に影響を及ぼす可能性がある状況のことをいいます。本研究は主任研究者の教員研究費および平成 27 年度川崎医科大学プロジェクト研究費(27 挑-008)を資金源として実施します。この他に、研究の結果に影響を及ぼすような特定の団体からの資金提供や薬剤などの無償提供などは受けておりませんので、深刻な利益相反の状態にはなっていません。

この研究に関してご質問のある方や研究への参加を希望されない方は、下記までご一報下さいませようお願い致します。

問い合わせ先: 川崎医科大学 放射線医学(治療) 講師 釋舎竜司

〒701-0192 倉敷市松島 577 TEL : 086-462-1111 FAX : 086-464-1132

電子メール : radoncol@med.kawasaki-m.ac.jp